

45°コントラアングルのハンドピースと 超音波ロングチップを用いた口腔外科小手術

2019.10.27 Sun 13:20-15:20

口腔外科小手術で使用される骨切削機器は、90°コントラアングルとストレートタイプの2つのものが主流であった。口腔外科小手術で代表的な水平埋伏智歯抜歯では、この2つ切削機器により骨削・歯冠分割を行うが、埋伏歯の傾斜は様々であり、時には分割に適切な角度を付与することが難しいことに遭遇する。以前より、歯冠形成での問題解決の要望から45°ハンドピースも展開されてきたが、エアータービンであればその切削効率の低さから口腔外科小手術での使用には問題があった。近年では、45°アングルの4.2倍速コントラハンドピースも販売されるようになり、切削効率の問題も解消され、歯冠の切削もスムーズに行えることで汎用性は向上している。また、近年最も普及してきている骨切削機器としては超音波骨切削機器が挙げられる。バーやノコに比較して切削スピードは劣るものの、出血量の低下・脈管神経への損傷の回避・周囲軟組織の巻き込み防止などの特徴があり、低侵襲手術が求められる現場では有用な機器といえる。さらに、歯槽外科だけを考慮した通常のチップに加え、臼後部・下顎枝部・上顎後方などといった口腔内手術では深部といえる箇所にも容易に届くロングチップが開発・販売されるようになり、手術の安全性を向上させる期待が持たれている。本セミナーでは、口腔内手術としての上記のハンドピースやロングチップの使用法などについて解説しながら、口内からアプローチする煩わしさを再現した実習を予定している。日常臨床で使用する具体的な問題やコツについて検討出来る機会になることを期待する。



山内 健介 先生

東北大学大学院 歯学研究科
口腔病態外科学講座
顎顔面・口腔外科学分野 准教授



土生 学 先生

九州歯科大学
生体機能学講座
顎顔面外科学分野 講師

日時 : 2019年10月27日(日) 13:20~15:20

会場 : 第3会場 (札幌コングレコンベンションセンター1F 中ホール 1/2A)

定員 : 20名

申込方法 : 大会WEBサイトよりお申込み ※10月1日より受付開始